

2. 取組を進めるに当たり困難であった事例について

B. 円滑な学位授与の促進

①複数教員による多面的な指導体制の整備

●京都大学医学研究科医学専攻

「共通・分野別教育統合による医学研究者育成」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

大学院教育コース「発生・細胞生物学」で複数教員による指導の希望者を募ったが、学生側の希望が少なかった。

(苦勞したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

複数教員による指導体制にどのような有効性があるのか、学生に十分認知されていなかった。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

多方面で公正な評価が期待されることなど、複数教員指導体制の有効性を予め学生に周知し理解を広める必要があった。